

鄭 雄一

2 学術論文

- 1) SHIMOHATA N, ECHIGO R, KARATSU K, UCHIKAWA S, SUZUKI S, CHUNG U, SASAKI N, MOCHIZUKI M. Trehalose decreases blood clotting in the cerebral space after experimental subarachnoid hemorrhage. *J Vet Med Sci*, 19-0201, 2019.
- 2) Yano F, Ohba S, Murahashi Y, Tanaka S, Saito T, Chung U. Runx1 contributes to articular cartilage maintenance by enhancement of cartilage matrix production and suppression of hypertrophic differentiation. *Sci Rep* 9 (1):1-9, 2019
- 3) Fujiyabu T, Yoshikawa Y, Kim J, Sakumichi N, Chung U, Sakai T. Shear Modulus Dependence of the Diffusion Coefficient of a Polymer Network. *Macromolecules*, 2019.
- 4) Xuan F, Yano F, Mori D, Chijimatsu R, Maenohara Y, Nakamoto H, Mori Y, Makii Y, Oichi T, Taketo M M, Hojo H, Ohba S, Chung U, Tanaka S, Saito T. Wnt/ β -catenin signaling contributes to articular cartilage homeostasis through lubricin induction in the superficial zone. *Arthritis Res Ther* 21:1-11, 2019.
- 5) Fujinaga I, Yasuda T, Asai M, Chung U, Katashima T, Sakai T. Cluster growth from a dilute system in a percolation process. *Polymer J* 52:289-297, 2019.
- 6) Svensson T, Chung U, Tokuno S, Nakamura M, Svensson AK. A validation study of a consumer wearable sleep tracker compared to a portable EEG system in naturalistic conditions. *J Psychosomatic Res* 126:109822, 2019.
- 7) Kawata M, Mori D, Kanke K, Hojo H, Ohba S, Chung U, Yano F, Masaki H, Otsu M, Nakauchi H, Tanaka S, Saito T. Simple and Robust Differentiation of Human Pluripotent Stem Cells toward Chondrocytes by Two Small-Molecule Compounds. *Stem Cell Rep* 13:530-544, 2019.
- 8) Katashima T, Chung U, Sakai T. Mechanical properties of doubly crosslinked gels. *Polymer J* 51:851-859, 2019.
- 9) Fujiyabu T, Yoshikawa Y, Chung U, Sakai T. Structure-property relationship of a model network containing solvent. *Sci Tech Adv Mater* 20:608-621, 2019.
- 10) Katashima T, Sakurai H, Chung U, Sakai T. Dilution Effect on the Cluster Growth near the Gelation Threshold. *Nihon Reoroji Gakkaishi* 47:61-66, 2019

4 学会等での活動

- 1) Hojo H, Ohba S, Yamakawa A, Guo Q, He X, Saito T, Onodera S, Azuma T, Chung UI, and McMahon AP. Cell-type-distinct regulatory action of Runx2 on the genome underlies its distinct roles in osteoblasts and chondrocytes. 2019 Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research, Florida, USA, September 20-23, 2019 (Oral presentation)
- 2) 北條宏徳, 山川晃, 齋藤琢, 小野寺晶子, 東俊文, 鄭雄一, 大庭伸介: Runx2 は骨

格発生において細胞種特異的な転写制御領域に作用する 第 37 回日本骨代謝学会，
2019 年 10 月 12 日—14 日，神戸（口頭発表）

- 3) 鄭 雄一：三次元形状制御による再建用足場材料の開発 第 37 回日本頭蓋顎顔面外科
科学会学術集会，2019 年 10 月 31 日，東京（口頭発表）

5 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 日本再生医療学会理事（2010 年 3 月より）、Regenerative Therapy 運営委員長
- 2) 日本バイオマテリアル学会評議員（2006 年 4 月より）
- 3) Regenerative Therapy(日本再生医療学会公式英文誌), Associate Editor
- 4) Science and Technology of Advanced Materials(STAM), Associate Editor
- 5) 厚生労働省：国民が受ける医療の質の向上のための医療機器の研究開発及び普及の促進に関する協議のためのワーキンググループ 委員（2015 年 3 月より）
- 6) 検体検査機器の安全規格の JIS（日本工業規格）化委員長（2017 年 4 月より）
- 7) 神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室 非常勤顧問（2018 年 2 月より）

6 学内教育活動

大学院博士前期課程

- 1) 未病特論
- 2) フィールド実習（IA、IB、IIA、IIB）
- 3) ヘルスイノベーション演習基礎
- 4) ヘルスイノベーション演習

7 学内各種委員会活動

- 1) 教育研究審議会
- 2) 全学入試委員会
- 3) 自己評価審査会
- 4) ヘルスイノベーション研究科運営委員会
- 5) イノベーション政策研究センター運営委員会
- 6) ヘルスイノベーション研究科 COI 審査会

8 社会貢献

- 1) 国際標準化機構（ISO）：TC210（医療機器品質共通標準） 国内対策委員長（2013 年 4 月より）
- 2) 世界保健機構（WHO）：WHO 高齢化部門が主催する Clinical Consortium on Healthy Ageing 専門家（2017 年より）

9 講演，放送

- 1) 笑いあふれる 100 歳コミュニティの実現に向けて—笑いによる社会参加の促進—，
神奈川県庁トップセミナー，2019 年 7 月 10 日，横浜

- 2) 未病とヒューマンサービス, ヒューマンサービス研究会, 2019年10月5日, 横須賀
- 3) Development of ME-BYO Index, ME-BYO サミット 2019, 2019年11月13日, 箱根

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

[東京大学での受託]

- 1) JST 革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM) 「自分で守る健康社会 : Self-managing Healthy Society COI 拠点」(予定)(研究代表者), 平成 25 年度-33 年度 (予定)
- 2) 基盤研究(S)「シグナル因子と三次元構造材料を統合する「四次元足場システム」の創製」(予定)(研究代表者), 平成 28 年度-32 年度 (予定)

坂巻 弘之

1 著書

- 1) Hiroyuki Sakamaki: Pricing and Reimbursement Systems of Drugs and Medical Devices and Health Technology Assessment in Japan. In “Health Care Policy in East Asia Volume 2: Health Care System Reform and Policy Research in Japan. Toshihiko Hasegawa, Tomonori Hasegawa et al Ed.” World Scientific Publishing Co. Inc PP. 275-289, 2019 (
- 2) 坂巻弘之: 薬物治療レビューと本書の使い方. 「実践的ケーススタディ薬剤レビュー 薬剤師のためのプロセスガイド: 日本語版. Timothy Chen, Rebekah Moles et al 著 (上田薬剤師会訳)」 薬業日報 PP.1-7, 2019 (東京)

2 学術論文

[査読付き論文]

- 1) Ohno S, Chen Y, Sakamaki H, Matsumaru N, Tsukamoto K. : A population-based study of the humanistic burden among cancer patients in Japan. J Med Econ. 2019 Dec 20;1. doi: 10.1080/13696998.2019.1707213. [Epub ahead of print]
- 2) Inoue S, Nakao K, Hanyu M, Hayashida K, Shibahara H, Kobayashi M, Asaoka M, Nishikawa K, Clancy S, Koshiishi J, Sakamaki H.: Cost-Effectiveness of Transcatheter Aortic Valve Implantation Using a Balloon-Expandable Valve in Japan: Experience From the Japanese Pilot Health Technology Assessment. Value Health Reg Issues. 2019 Oct 25;21:82-90. doi: 10.1016/j.vhri.2019.07.013. [Epub ahead of print]
- 3) Ohno S, Chen Y, Sakamaki H, Matsumaru N, Tsukamoto K.: Humanistic and economic burden among caregivers of patients with cancer in Japan. J Med Econ. 2020 Jan;23(1):17-27. doi: 10.1080/13696998.2019.1675672. Epub 2019 Oct 15.
- 4) Kaku K, Haneda M, Sakamaki H, Yasui A, Murata T, Ustyugova A, Chin R, Hirase T, Shibahara T, Hayashi N, Kansal A, Kaspers S, Okamura T. Cost-effectiveness Analysis of Empagliflozin in Japan Based on Results From the Asian subpopulation in the EMPA-REG OUTCOME Trial. Clin Ther. 2019 Oct;41(10):2021-2040.e11. doi: 10.1016/j.clinthera.2019.07.016. Epub 2019 Sep 25.
- 5) Sakamaki H, Nakao K, Matsumoto T, Inoue S.: Cost-effectiveness analysis of percutaneous mitral valve repair with the MitraClip delivery system for patients with mitral regurgitation in Japan. J Med Econ. 2019 Dec;22(12):1312-1320. doi: 10.1080/13696998.2019.1668132. Epub 2019 Sep 27.

[総説、論説論文－査読なし]

- 1) 坂巻弘之: ジェネリック医薬品産業をめぐる環境とシェア 80%に向けての課題(上) 社会保険旬報 (1343-5728)2739号 Page6-14(2019.02)

- 2) 坂巻弘之：ジェネリック医薬品産業をめぐる環境とシェア 80%に向けての課題(下) 社会保険旬報 (1343-5728)2740号 Page10-18(2019.03)
- 3) 坂巻弘之：バイオシミラー使用促進のための診療報酬制度についての考察. 国際医薬品情報 No.1121 10-15, 2019
- 4) 坂巻弘之：多様なモダリティ開発と薬剤費コントロールをいかに両立するか. 国際医薬品情報 No.1145 1-4, 2020

[解説、報告書等]

- 1) 坂巻弘之：「フォーミュラリーをめぐる議論. 「ジェネリック医薬品協議会（編集）：2019年報「パネルディスカッション記録集、ジェネリック医薬品とフォーミュラリー：地域フォーミュラリー推進に向けて」. ジェネリック医薬品協議会 PP. 18-28, 2019
- 2) 健康保険組合連合会：医療保障総合政策調査・研究基金事業「保険者等による疾病管理・予防に関する国際比較調査」報告書(全体の監修)
- 3) 坂巻弘之：日本の薬剤使用の現状と課題. 健康保険 73 (6) 14-19,2019
- 4) 坂巻弘之：バイオシミラーの普及への期待と課題 バイオシミラーと診療報酬の一考察. 新薬と臨床 68(11): 1441-1442, 2019 (会議録)
- 5) 坂巻弘之：識者の眼「イノベーション推進と薬剤費コントロールを実現する薬価制度の議論が重要」. 日本医事新報 No. 5000 40, 2020

[その他]

- 1) 坂巻弘之：ヘルスイノベーションスクールの開設ー未病と薬剤師. 薬壺（神奈川県薬剤師会雑誌）2019年5,6月号 P.1

4 学会等での活動

[学会発表、講演等]

- 1) 坂巻弘之：Cost-effectiveness Evaluation and Cardiovascular Guidelines. 第83回日本循環器学会学術集会シンポジウム（横浜）2019.03.31
- 2) 大野 慎也、Chen Yirong、坂巻弘之、塚本 桂：日本におけるがん患者の健康関連QOL及び経済的負担に関する研究。第16回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）2019.7.18
- 3) Hiroyuki Sakamaki: What role does biosimilars play in Australia and Japan? What are the opportunities and challenges going forward? Biosimilar Policies in Asia Providing Sustainable Access to Patients, Taiwan Society for Pharmacoeconomics and Outcome Research (TASPOR) Taipei, 2019.10.19
- 4) 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第13回学術大会（長崎）2019.7.6（ランチョンセミナー「シェア80%に向けての課題とポスト80%の次世代産業ビジョン」（主催日本ジェネリック製薬協会）（座長ならびに講演「ジェネリック医薬品シェア80%に向けての課題」）

5 学会，協会，公的団体の会員・委員など

[学会]

- 1) 日本医療・病院管理学会会員
- 2) 日本薬学会会員
- 3) 日本医療マネジメント学会会員
- 4) Drug Information Association(DIA)会員
- 5) 日本レギュラトリーサイエンス学会会員
- 6) 国際医薬経済・アウトカム研究学会 International society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research(ISPOR)、アジア太平洋理事、日本部会評議員

[他大学出講、公的団体役員・委員等]

- 1) ヨンセイ大学グローバル健康研究センター客員研究員
- 2) 岐阜薬科大学大学院薬学研究科グローバルレギュラトリーサイエンス研究室非常勤講師
- 3) 首都大学東京大学院 非常勤講師
- 4) 慶應義塾大学薬学部 非常勤講師
- 5) 昭和大学薬学部 非常勤講師
- 6) 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 客員研究員
- 7) 公益財団法人 一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 研究助成選考委員
- 8) 公益財団法人 医療科学研究所「医療と社会」編集幹事
- 9) NPO 法人 ジェネリック医薬品協議会 (GEDA) 理事
- 10) 健康保険組合連合会：医療保障総合政策調査・研究基金事業「保険者等による疾病管理・予防に関する国際比較調査」 (研究監修)
- 11) 日本ジェネリック製薬協会「共同開発タスクフォース」(委員)
- 12) 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ財団理事
- 13) 公益財団法人慈愛会 評議員
- 14) 単回医療機器再製造推進協議会 特別会員

6 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科：医療技術評価 (未開講、2年目より実施)
- 2) ヘルスイノベーション研究科：医薬品・医療機器開発
- 3) ヘルスイノベーション研究科：ヘルスイノベーション演習基礎：担当学生2名
- 4) ヘルスイノベーション研究科：ヘルスイノベーション演習

7 学内各種委員会活動

[大学・ヘルスイノベーション研究科]

- 1) ヘルスイノベーション研究科 副研究科長
- 2) ヘルスイノベーション研究科 運営委員会 委員
- 3) ヘルスイノベーション研究科 入試判定会議 委員
- 4) ヘルスイノベーション研究科 研究助成審査委員長

- 5) 神奈川県立保健福祉大学 教育研究審議会委員
- 6) 神奈川県立保健福祉大学 将来構想委員会地域貢献分科会委員

[イノベーション研究センター]

- 1) イノベーション政策研究センター センター長
- 2) 医薬品・医療機器開発に関する企業見学会（ジョンソン&ジョンソン、殿町実験動物中央研究所等、2019.11.15）
- 3) 国立医薬品食品衛生研究所（国立衛研）見学会（2019.5.22）
- 4) 県立がんセンターのがん登録データ利用可能性のための検討会（2019.4.18）
- 5) イノベーション研究センター研究員受け入れのための東和薬品工業との意見交換会（2019.6.27 および 10.23）開催。
- 6) 神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センターHealth Innovation Seminar「自治体発ヘルスイノベーションの実現ー日米における新たな潮流ー」（主催：神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センター、共催：神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科）東京、2019.9.18（主催者挨拶、イノベーション政策研究センター紹介）
- 7) 先端医療におけるイノベーションとレギュレーションの共進化（主催：東京大学大学院新領域創成科学研究科、神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センター）東京、2019.9.19、（主催者挨拶）
- 8) 神奈川県 KDB 研修事業（主催者神奈川県）2019.11.6、19、25（講義「健康政策と保健医療データ活用の可能性」）

8 社会貢献

[官公庁委員]

- 1) 厚労省医政局経済課：バイオ医薬品の使用促進に係る普及啓発等事業（研究委員）
- 2) 厚労省医政局経済課：ロードマップ検証検討事業（研究委員）
- 3) 厚労省保険局医療課：診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成31年度調査）後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査（研究委員）
- 4) 厚労省保険局医療課：かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査（研究委員）
- 5) 内閣官房健康・医療戦略室：「アジア健康構想」実現に向けた東洋医学のエビデンス作成に向受けた実証可能性等調査（研究委員）
- 6) 厚生労働省医政局：医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議（委員）

[神奈川県に関する社会貢献]

- 1) 2019年度未病産業研究会有料講座【未病（ヘルスケア）産業における基盤ナレッジ】（主催神奈川県）（企画立案と講義 2020.3.16 予定）
- 2) 国際シンポジウム「ME-BYO サミット神奈川 2019」（主催神奈川県）神奈川 2019.11.13（シンポジウム分科会②「未病社会のデザイン」パネリスト）
- 3) 国際シンポジウム「ME-BYO サミット神奈川 2019」（主催神奈川県）神奈川 2019.11.14

(分科会⑤「ME-BYO が拓く新たなマーケット」モデレーター)

9 講演, 放送等

[学会、公的団体主催による講演]

- 1) レギュラトリーサイエンス学会シンポジウム「薬価制度改革の影響と医療保険や製薬産業の将来に向けた課題」(主催レギュラトリーサイエンス学会) 東京、2019.3.19
- 2) 第5回バイオシミラーフォーラム「バイオシミラーの普及への期待と課題」(主催バイオシミラー協議会) 東京、2019.7.18 (シンポジスト)
- 3) 第2回 DIA Health Economics and Outcomes Research (HEOR) ワークショップ(旧 DIA HTA ワークショップ) リアルワールドデータ (RWD) 最先端～薬事規制と価値評価へのインパクトの真価を問う(主催 DIA) 東京、2019.10.4 (シンポジウム座長)
- 4) レギュラトリーサイエンス エキスパート研修会専門コース(短期集中型) バイオ医薬品等に関する品質関連研究講座(入門編)(主催:レギュラトリーサイエンス財団) 東京、2019.12.17,18 (講師「医療経済から見るバイオ医薬品」)
- 5) シンポジウム「行動経済学の視点から: どうすれば高齢患者の合理的な治療選択を支援できるか-TAVI のケース」第67回日本心臓病学会学術集会ランチョンセミナー(共催:エドワーズライフサイエンス株式会社) 名古屋 2019.9.15 (中尾 浩一、平井 啓、坂巻 弘之による鼎談)
- 6) イノベーション政策研究センターについて. 横須賀市研究者交流会、横須賀、2019.7.31

[マスコミ等への引用]

- 1) 「医療費の抑制.質も向上」 読売新聞 2019.11.29 朝刊、コメント引用
- 2) 「公正取引委員会が強制調査・薬価高止まりで利益確保の疑いも」 NHK 総合ニュース 7 2019.11.27、コメント引用
- 3) 「バイオシミラーフォーラム BS 普及には製品への懸念払拭が必要」ミクス Online- 2019.07.18、コメント引用
- 4) 「「使わない医師」が懸念持ち続ける BS 協議会がフォーラム 課題に「安定供給」「適応不一致」も」 2019.7.18、コメント引用
- 5) 「医療ニーズ充足領域は薬価引き下げを 坂巻教授、財源は再生医療などへ 「イノベ亡国論」を懸念」 2019.2.25、コメント引用

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

[研究費]

- 1) 厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「次世代バイオ医薬品等の革新的な医薬品創出に向けた環境整備に関する研究」交付金:4,000千円(主任研究者)
- 2) 厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「総括製造販売責

任者の選任に関する例外規定を定めるための研究」 交付金：8,000 千円（主任研究者に一括計上）（分担研究者）

[学内研究助成金などの受託]

- 1) 奨学寄附金（東京理科大学から移管）

[共同研究]

- 1) 名城大学薬学部病院薬学教室（半谷真七子人教授）「在宅医療での薬剤師の業務を評価する在宅薬学管理評価基準票の開発」共同研究（財源は名城大学薬学部）
- 2) 東邦大学薬学部医療薬学教育センター薬事法学研究室（平賀秀明助教）「患者宅への医薬品配送時の問題点と患者が許容できる配送時間に関する調査」共同研究（財源は東邦大学薬学部）

大西 昭郎

1 著書

- 1) 医療技術の経済評価と公共政策 共著ほか 18名 2013年4月 (株)じほう

3 その他の著作

- 1) 健康と医療の架橋について考える 佐藤 智晶, 大西 昭郎, レギュラトリーサイエンス誌 2019年8月号 Vol.50 No.8 pp.436
- 2) 医療機器を介した健康・医療の更なる分野横断的なイノベーションに向けて -米国における規制の創造を考える- 大西 昭郎・他、レギュラトリーサイエンス誌 2019年2月号 Vol.50 No.2 pp.83
- 3) 医療機器規制に関する近年の振り返り 昌子 久仁子, 大西 昭郎 レギュラトリーサイエンス誌 2018年12月号 Vol.49 No.12 pp.815

5 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 厚生労働省 独立行政法人評価審議会 委員
- 2) 厚生労働省 国立研究開発法人評価審議会 委員
- 3) 科学技術振興機構 COI ストリーム ビジョンメンバー

6 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション概論
- 2) 組織マネジメント

7 学内各種委員会活動

- 1) 入試委員会委員
- 2) 教務委員会委員
- 3) 運営委員会委員

14 その他

- 1) 東京大学公共政策大学院客員教授 (医療イノベーション政策、サイバーセキュリティ政策概論、HTA エキスパートコース、同大学薬学部での講義など)
- 2) 慶応義塾大学医学部特任教授

川村 顕

2 学術論文

- 1) 別所俊一郎, 田中隆一, 牛島光一, 川村顕, 野口晴子 (2019) 「区立小学校での補習の効果：足立区のケース」, フィナンシャル・レビュー(141), 141-159.
- 2) 野口晴子, 別所俊一郎, 牛島光一, 川村顕, 田中隆一 (2019) 「就学援助と学力との関連性について：足立区におけるパネルデータ分析結果から」, フィナンシャル・レビュー(141), 120-140.
- 3) 別所俊一郎, 野口晴子, 田中隆一, 牛島光一, 川村顕 (2019) 「子どもについての行政データベースの構築」, フィナンシャル・レビュー(141), 106-119.
- 4) Bessho Shun-ichiro, Noguchi Haruko, Kawamura Akira, Tanaka Ryuichi, Ushijima Koichi (2019), “Evaluating remedial education in elementary schools: Administrative data from a municipality in Japan”, Japan and the World Economy, 50, pp.36-46
- 5) Fu R, Noguchi H, Kaneko S, Kawamura A, Kang C, Takahashi H, Tamiya N (2019), “How do cardiovascular diseases harm labor force participation? Evidence of nationally representative survey data from Japan, a super-aged society”, PloS one 14(7) e0219149.

6 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 「医療経済学」(修士1年後期)
- 2) ヘルスイノベーション研究科 「データサイエンス」(修士1年後期)

7 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 運営会議 委員
- 2) ヘルスイノベーション研究科 教務委員会 委員
- 3) ヘルスイノベーション研究科 学生委員会 委員

8 社会貢献

- 1) 神奈川県主催(イノベーション政策研究センター受託事業)「健康づくりのためのデータ活用研修 2019」講師

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 「産業別・地域別における生活習慣病予防の社会経済的な影響に関する実証研究」(研究代表者:野口晴子), 厚生労働科学研究費補助金, 2019年4月-2022年3月, 研究分担者.
- 2) 「科学的根拠に基づく健康政策の実現に向けてー文理融合によるビッグデータの利活用」(研究代表者:野口晴子), 日本学術振興会: 挑戦的研究(開拓), 2019年6月-2023年3月, 研究分担者.

- 3) 「子どもの人的資本に係る科学的根拠の創出と実装：官学協働による政策評価過程の開発」(研究代表者：野口晴子)，日本学術振興会：基盤研究(A)，2019年4月-2022年3月，研究分担者.
- 4) 「介護保険利用者のアクセシビリティの変化と格差：ビッグデータを用いた分析」(研究代表者：川村顕)，日本学術振興会：基盤研究(C)，2017年4月-2020年3月，研究代表者.

島岡 未来子

1 著書

- 1) 島岡未来子（共著）『新・公共経営論』、担当章：第9章「企業が解決する社会課題」、ミネルヴァ書房、2020年3月（予定）⇒2020年6月に延期
- 2) 佐藤真久、島岡未来子『協働ガバナンスと中間支援機能：環境保全活動を中心に』、筑波書房、2020年3月（予定）⇒2020年7月に延期

4 学会等での活動

【学会発表】

- 1) 島岡未来子（神奈川県立保健福祉大学/早稲田大学）、高田祥三（早稲田大学）、朝日透（早稲田大学）、深澤知憲（エマージングテクノロジーズ）、「起業家教育がもたらす意識変化：受講生対象のアンケート調査分析」、2019年10、研究・イノベーション学会第34回年次学術大会（東京、政策研究大学院大学）。
- 2) 高田祥三（早稲田大学）、島岡未来子（神奈川県立保健福祉大学/早稲田大学）高輪めぐみ、上島早織（(株)早稲田大学アカデミックソリューション）、「多様なバックグラウンドを持つ学生を対象とした新規事業創出グループワークの構築について：Skyward EDGE コンソーシアム コンソーシアム合同プログラムを例に」2019年11月、イノベーション教育学会 第7回大会（徳島県、徳島大学）。
- 3) 島岡未来子（神奈川県立保健福祉大学/早稲田大学）、「社会的課題解決を目指すイノベーションの「手法」：大学における起業家教育の事例から-」2019年12月、日本ソーシャル・イノベーション学会第1回年次大会（京都府、同志社大学）。

【ワークショップ等での発表】

- 4) Mikiko Shimaoka, “Entrepreneurship Education at WASEDA : WASEDA-EDGE Global Talent Development Program Value Co-creation Eco-system for Developing Global Entrepreneurs”、JST-MIRAI Program Joint Workshop、SDGs, innovative challenges, May 2019, JST, Tokyo.
- 5) Mikiko Shimaoka, “Introducing Leadership development and Team Building in Entrepreneurship Education”, WORKSHOP INNOVATION and ENTREPRENEURSHIP, Mirai Seminar, Nov. 2019, Stockholm University, Sweden.

5 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 環境省「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」全国アドバイザー委員、中部審査委員、東北審査委員
- 2) 研究・イノベーション学会、第34回年次学術大会、一般講演（ホットイシュー）スタートアップと大学・企業①、座長。
- 3) ノンプロフィット・レビュー（The Nonprofit Review）査読（1件）。

- 4) 神奈川県立保健福祉大学誌 査読 (1 件)。
- 5) 日本×スウェーデンの大学間における研究推進「未来プロジェクト」イノベーション部門の運営メンバーとして下記を行った
 - ・2019 年 6 月の日本での合同ワークショップの企画と運営
 - ・2019 年 11 月スウェーデンでの「未来セミナー」イノベーションワークショップの企画と運営
 - ・11 月スウェーデンでの「未来セミナー」において、Ageing, Material Science, Sustainability, Innovation 参加者によるジョイントワークショップ：“From research to societal impact: The NABC method”のモデレータ (ルンド大学との共同実施、100 名以上の研究者が参加)

- 6 学内教育活動
 - 1) Entrepreneurship I の実施
 - 2) 修士論文指導 (主査 2 名、副査 1 名)

- 7 学内各種委員会活動
 - 1) SHI 入試委員会 委員長
 - 2) SHI 企画委員会 委員
 - 3) SHI 運営委員会 委員
 - 4) SHI 研究助成金 審査委員
 - 5) 神奈川県立保健福祉大学 自己評価専門部会 委員

- 8 社会貢献
 - 1) キングスカイフロント夏の科学イベント 2019「デザイン思考でキミのアイデアを育てよう!」、2019 年 8 月、主催：川崎市、【講演者】島岡未来子。

- 9 講演, 放送
 - 1) 講演「SDGs に取り組むメリット、各取組との SDGs の関係」、シンポジウム「鶴岡から SDGs を発信しよう!～鶴岡市内の事例から SDGs を学ぶ～」2019 年 7 月、山形県鶴岡市、主催：環境省東北環境パートナーシップオフィス (EPO 東北)。
 - 2) 講師「チームマネジメント講習会」、2019 年 7 月、山形県鶴岡市 (対象：鶴岡市内の保育園・幼稚園の園長、先生 50 名) 主催：山形県鶴岡市三瀬地区自治会。
 - 3) 講演「多様な協働による事業創造に向けて」2019 年 11 月、「地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム in 飯山、主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)。

- 10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託
 - 1) 2020 年度科研費 (基盤 C) (応募中) ⇒採択
 - 2) Stint(Sweden)による公募“2020 Joint Japan-Sweden Research Collaboration”に、

“Entrepreneurship education - A comparative analysis between Sweden and Japan”
をテーマにルンド大学と共同で応募中 ⇒不採択

12 受賞

- 1) 2019年度春学期 早稲田大学ティーチングアワード総長賞

13 特許など

- 1) 認定コーチ資格更新

14 その他

- 1) SHI：早稲田大学が主幹機関である Skyward EDGE の協力機関化へのコーディネーション。
- 2) 上記協力機関化を記念した SHI 鄭研究科長による早稲田大学でのご講演の企画、運営。5月。(タイトル:「神奈川県立保健福祉大学 ヘルスイノベーション研究科&早稲田大学 WASEDA-EDGE 人材育成プログラム連携記念ワークショップ」、「自分で守る健康社会を目指して」、神奈川県立保健福祉大学 ヘルスイノベーション研究科 鄭 雄一研究科長をお招きして)。
- 3) 神奈川県立保健福祉大学実践教育センターの学生を対象とした、デザイン思考ワークショップ開催(2月予定)(SHIと実践教育センターの共催)。
- 4) SHIが協力機関である、WASEDA-EDGE 人材育成プログラムの事務局長代行業務

以上

昌子 久仁子

3 その他の著作

- 1) 医療機器に関する近年の振り返り 昌子 久仁子他 レギュラトリーサイエンス誌 Vol.49 No.12、
- 2) 医療機器雑感 (一財)機械振興協会 経済研究所 コラム・レポート 2019年9月
- 3) 薬機法改正 レギュラトリーサイエンス誌 2020年掲載予定
- 4) 令和2年診療報酬改定からみえてくるもの 日医工ジャーナル No.411 2020.2-3

4 学会等での活動

- 1) DIA 医療機器セミナー プログラム委員 2019年5月
- 2) レギュラトリーサイエンス研究会 保険制度についての講演 2019年6月
- 3) デューク大学覚書の決セミナー パネラー 2019年9月
- 4) DIA Health Economics and Outcomes Research ワークショップ 座長 2019年10月
- 5) 大阪大学 MEI センター国際シンポジウム 座長 2019年11月
- 6) ME-BYO サミット パネラー 2019年11月
- 7) DIA 日本年会 プログラム委員 2019年11月

5 学会、協会、公的団体の委員など

- 1) (一財)医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団アドバイザーメンバー
- 2) 国立研究開発法人 日本医療開発機構課題評価委員会委員
- 3) (一社)機械振興協会 経済研究所 上級研究員
- 4) (公財)医療機器センター 医療機器産業研究所 上級研究員
- 5) 早稲田大学医療レギュラトリーサイエンス研究所 招聘研究員
- 6) (公財)がん集学的治療財団 医療機器委員会委員
- 7) 国立研究開発法人 日本医療開発機構 研究・経営評価評議会委員
- 8) 神戸医療産業都市戦略推進アドバイザー
- 9) (公財)マルホ・高木皮膚科学振興財団 理事

6 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション概論
- 2) 医薬品医療機器開発
- 3) 組織マネジメント

7 学内各種委員会活動

- 1) 人権・倫理委員会
- 2) 学生委員会委員
- 3) 企画委員会委員

4) イノベーション政策研究センター 運営委員

8 社会貢献

- 1) 学校法人 東京理科大学 理想会 常務委員 通年
- 2) 学校法人東京理科大学 評議員 通年
- 3) 在京島根県立浜田高校同窓会 会長 通年

9 講演、放送

- 1) 東京大学公共政策大学院 大学院生を対象に“イノベーティブな医療機器の開発と導入”について講演 2019年10月
- 2) 特定非営利活動法人 海外医療機器技術協力会 会員を対象に“薬事開発部の役割と期待”について講演 2019年11月

徳野 慎一

2 学術論文

- 1) Thomas Svensson, Ung-il Chung, Shinichi Tokuno, Mitsuteru Nakamura, Akiko Kishi Svensson, A validation study of a consumer wearable sleep tracker compared to a portable EEG system in naturalistic conditions, *Journal of Psychosomatic Research*, Volume 126, 109822. (2019.8)
- 2) Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Toda H, Saito T, Yoshino A, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Discrimination of Bipolar Disorders Using Voice, *Pervasive Computing Paradigms for Mental Health. MindCare 2019. Lecture Notes of the Institute for Computer Sciences, Social Informatics and Telecommunications Engineering*, vol 288. Springer, pp.199-207. (2019.7)
- 3) Omiya Y, Takano T, Uraguchi T, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, So M, Tokuno S, An attempt to estimate depressive status from voice, *Pervasive Computing Paradigms for Mental Health. MindCare 2019. Lecture Notes of the Institute for Computer Sciences, Social Informatics and Telecommunications Engineering*, vol 288. Springer, pp.168-175. (2019.7)

3 その他の著作

- 1) Tokuno S, A mind monitoring system: Voice analysis technology, *Open Access Government*, 2020(1), pp196-197
- 2) Tokuno S, Healthcare early detection technology: Voice analysis technology, *Open Access Government*, 2019(10), pp58-59
- 3) Tokuno S, Further developing voice analysis technology capable of detecting changes in vocal patterns which signal changes in stress levels and depressive symptoms, *Impact*, 2019(6), 2019.6, pp. 43-45(3)

4 学会等での活動

- 1) Tokuno S, Voice recognition system to detect cognitive decline, WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing (CCHA) 2019 annual meeting (Genova), 2019.11.21-22
- 2) Omiya Y, Uraguchi T, Takano T, Nakamura M, Shinohara S, Higuchi M, Suzuki K, Manome N, Ishida M, Kumamoto Y, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Pilot study of distinguish between dementia with Lewy bodies and healthy subjects using voice, *Neuroscience 2019 (Cicago)* 2019.10.19-23
- 3) Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Suzuki K, Manome N, Toda H, Saito T, Yoshino A, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Effectiveness of Voice Biomarker in Detecting Bipolar Disorder, *The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019) (Berlin)*, 2019.7.23-27
- 4) Nakamura M, Suzuki G, Shinohara S, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Mitsuyoshi S,

- Kobayashi N, Tokuno S, Relation between Stress Estimated by Voice Analysis and Blood Interleukin-1 Receptor Antagonist in High-Intensity Training, The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019) (Berlin), 2019.7.23-27
- 5) Uraguchi T, Omiya Y, Shinohara S, Suzuki K, Manome M, Kumamoto Y, Tokuno S, An experiment to distinguish Major Depression and Dementia with Lewy Bodies from healthy participants using voice, The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019) (Berlin), 2019.7.23-27
 - 6) Shinohara S, Toda H, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Manome N, Suzuki K, Uruguchi T, Saito T, Tanichi M, Mitsuyoshi S, Yoshino A, Tokuno S, Detecting persons with major depression by a voice index based on the relationship between Hurst exponent and zero crossing rate, The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019) (Berlin), 2019.7.23-27
 - 7) Omiya Y, Nakamura S, Shinohara S, Higuchi M, Suzuki K, Manome N, Mitsuyoshi S, Yamamoto I, Mukai S, Tokuno S, An experiment to detect Laryngomalacia using baby's crying voice, The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019) (Berlin), 2019.7.23-27
 - 8) Uruguchi T, Omiya Y, Takano T, Amemiya Y, Nakamura M, Takayama E, Tokuno S, Deguchi H, Evaluation of smart devices in IoT segment by using medical healthcare technology "MIMOSYS", The 12th Asian Control Conference (ASCC2019) (Kitakyushu), 2019.6.9-12.
 - 9) 大宮康宏、中村光晃、篠原修二、樋口政和、高野毅、浦口智貴、光吉俊二、三條信夫、徳野慎一、音声分析に基づくアルツハイマー型認知症の検出のための検討、第 58 回日本生体医工学会大会(沖縄), 2019.6.6-8.
 - 10) 樋口政和、中村光晃、篠原修二、大宮康宏、高野毅、赫寛雄、三苫博、光吉俊二、徳野慎一、音声によるパーキンソン病患者の重症度判別、第 58 回日本生体医工学会大会(沖縄), 2019.6.6-8.
 - 11) 中村光晃、大宮康宏、篠原修二、樋口政和、高野毅、光吉俊二、淡野宏輔、田中俊一、徳野慎一、体位に依存した音声特徴量の変化に基づく閉塞性睡眠時無呼吸リスク推測手法の高精度化に関する検討、第 58 回日本生体医工学会大会(沖縄), 2019.6.6-8.
 - 12) 篠原修二、戸田裕之、中村光晃、大宮康宏、樋口政和、高野毅、斎藤拓、谷知正章、光吉俊二、吉野相英、徳野慎一、ハースト指数とゼロ交差率に基づく音声指標によるうつ重症度測定、第 58 回日本生体医工学会大会(沖縄), 2019.6.6-8.
 - 13) Tokuno S, Current Status and Future Prospects of Voice Biomarkers, Kanagawa Prefecture Seminar on Healthcare New Frontier in Japan "ME-BYO: Building a Better Future through Behavior Change", WHA72 Evening Seminar (Genova), 2019.5.22
 - 14) Higuchi M, Yamamoto I, Omiya Y, Nakamura M, Shinohara S, Takano T, Nakagawa K, Ohira H, Yamada Y, Hasegawa I, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Voice-Based Evaluation of Stress by Body Identification, 27th International "Stress and Behavior" Neuroscience and Biopsychiatry Conference (ISBS 2019) (St. Petersburg), 2019.5.16-19
 - 15) Nakamura M, Ikeuchi M, Oroguchi T, Yamanaka K, Amagi H, Shinohara S, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Evaluation of Effect of Light Labor on Retired people

- Using Voice Analysis, 27th International "Stress and Behavior" Neuroscience and Biopsychiatry Conference (ISBS 2019) (St. Petersburg), 2019.5.16-19
- 16) Omiya Y, Nakamura M, Shinohara S, Higuchi M, Takano T, Mitsuyoshi S, Terashi H, Tokuno S, Pilot study to detect Parkinson's disease based on vocal analysis, 27th International "Stress and Behavior" Neuroscience and Biopsychiatry Conference (ISBS 2019) (St. Petersburg), 2019.5.16-19
 - 17) Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Toda H, Saito T, Yoshino A, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Discrimination of Bipolar Disorders Using Voice, 9th EAI International Conference on Pervasive Computing Paradigms for Mental Health (MindCare 2019) (Buenos Aires), 2019.4.23-24
 - 18) Omiya Y, Takano T, Uraguchi T, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, So M, Tokuno S, An attempt to estimate depressive status from voice, 9th EAI International Conference on Pervasive Computing Paradigms for Mental Health (MindCare 2019) (Buenos Aires), 2019.4.23-24
 - 19) Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Voice Analysis Opens The Door To The Future Health Society, Nature 創刊 150 周年記念シンポジウム 日本の科学の未来 持続可能な開発目標の達成に向けたビジョン(東京), 2019.4.23
- 5 学会, 協会, 公的団体の委員など
- 1) 日本災害医学会 評議員
 - 2) 日本臨床救急医学会 法執行機関との医療連携のあり方に関する検討委員会研修コース等検討小委員会
- 6 学内教育活動
- 1) 環境保健学
 - 2) 産業保健学
 - 3) 健康危機管理論
- 8 社会貢献
- 1) 日本 MIMMS 委員会 理事
- 9 講演, 放送
- 1) Data science: the new force in mental health research, nature, 2019.12.12
 - 2) データサイエンス:メンタルヘルス研究の新しい力, nature 日本語版, 2019.12:19/26
 - 3) 徳野慎一, Indication of me-byo using voic - MIMOSYS (Mind Monitoring System) & Its Application, 未病サミット(箱根), 2019.11.13
 - 4) 徳野慎一, 音声病態分析の進捗状況, COI シンポジウム 2019(東京), 2019.10.25
 - 5) 徳野慎一, 音声感情認識技術を用いたこころのモニタリングについて, Nature フォーラム: こころの健康とデータサイエンス(東京), 2019.10.24
 - 6) 徳野慎一, 声から読み解く気持ち, 第 129 回 (2019 年春季) 東京大学公開講座『氣』,

2019.4

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 平成 27 年 4 月～平成 35 年 3 月 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 研究成果展開事業「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム・自分で守る健康社会拠点」研究分担者
- 2) 平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月 文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「遺体の身元確認作業による心的外傷後ストレス障害を予防するためのストレス度測定」研究分担者
- 3) 平成 30 年 4 月～令和 3 年 3 月 文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「低線量・低線量率放射線被ばくが疾病モデル動物の全身免疫能に及ぼす影響」研究分担者
- 4) 平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月 文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「子ども虐待予防: 舌喉頭矯正術による児の育児困難症状改善と母親の疲労改善の評価」研究分担者

中原 慎二

1 著書

- 1) セーフティプロモーション：安全・安心を創る科学と実践. 晃洋書房. (共著)

2 学術論文

- 1) 中原慎二. 交通外傷の実態と対策. 都市計画. 2019;68(5):14-17.
- 2) 中原慎二. 【持続可能な開発目標 (SDGs) と保健医療】交通外傷の減少に成功した日本の経験. 保健の科学. 2019;61(12):812-817.
- 3) Nakahara S, Ichikawa M, Sakamoto T. Strengthening the Healthcare System in Low- and Middle-income Countries by Integrating Emergency Care Capacities. JMA J. 2019 Sep; 2:123-30.
- 4) Nakahara S, Hoang BH, Mayxay M, Pattanarattanamolee R, Jayatilleke AU, Ichikawa M, Sakamoto T. Development of an emergency medical system model for resource-constrained settings. Trop Med Int Health. 2019 Oct;24(10):1140-1150. doi: 10.1111/tmi.13301. Epub 2019 Sep 1. PubMed PMID: 31390114.
- 5) Druwé P, Benoit DD, Monsieurs KG, Gagg J, Nakahara S, Alpert EA, van Schuppen H, Éló G, Huybrechts SA, Mpotos N, Joly LM, Xanthos T, Roessler M, Paal P, Cocchi MN, Bjørshol C, Nurmi J, Salmeron PP, Owczuk R, Svavarsdóttir H, Cimpoesu D, Raffay V, Pachys G, De Paepe P, Piers R; REAPPROPRIATE study group. Cardiopulmonary Resuscitation in Adults Over 80: Outcome and the Perception of Appropriateness by Clinicians. J Am Geriatr Soc. 2020 Jan;68(1):39-45. doi: 10.1111/jgs.16270. Epub 2019 Dec 15. PubMed PMID: 31840239.
- 6) Ichikawa M, Inada H, Nakahara S. Effect of a cognitive test at license renewal for older drivers on their crash risk in Japan. Inj Prev. 2019 Mar 30. pii: injuryprev-2018-043117. doi: 10.1136/injuryprev-2018-043117. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 30928916.(in press)
- 7) Inada H, Tomio J, Nakahara S, Ichikawa M. Area-Wide Traffic-Calming Zone 30 Policy of Japan and Incidence of Road Traffic Injuries Among Cyclists and Pedestrians. Am J Public Health. 2020 Feb;110(2):237-243. doi: 10.2105/AJPH.2019.305404. Epub 2019 Dec 19. PubMed PMID: 31855486.
- 8) Chaleepad S, Impool T, Lertsinudom S, Chadbunchachai W, Nakahara S. First-responder training based on existing healthcare system in Thailand. Resuscitation. 2020 Jan 8;148:1-2. doi: 10.1016/j.resuscitation.2019.12.028. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 31926256.
- 9) Ichikawa M, Inada H, Nakahara S. Increased traffic injuries among older unprotected road users following the introduction of an age-based cognitive test to the driver's license renewal procedure in Japan. Accid Anal Prev. 2020;136:105440

- 10) Yokota M, Fujita T, Nakahara S, Sakamoto T. Clarifying differences in injury patterns between ground-level falls and falls from heights among the elderly in Japan. Public Health. 2020;181:114-8.

4 学会等での活動

- 1) Colombo International Trauma Conference (2019年6月11-12日) 招待講演、Workshop for Mass Casualty. “Preparedness for Mass Casualty Incident”

5 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) JRC 蘇生ガイドライン 2020 作成委員会 日本救急医学会委員
- 2) 社会保障審議会統計分科会専門委員

6 学内教育活動

- 1) 調査法演習
- 2) インジュリーコントロール講義

7 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科倫理委員会
- 2) ヘルスイノベーション研究科入試委員会
- 3) 研究委員会

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

- 1) 科学研究費補助金「開発途上国の救急医療システム構築モデルの提案—地域保健医療枠組みの活用 (19K09403)」: 研究代表者
- 2) 厚生労働科学研究費補助金「市民による AED のさらなる使用促進と AED 関連情報の取扱いについての研究(H 2 9-循環器等—一般-0 0 9)」: 研究分担者
- 3) 厚生労働科学研究費補助金「2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた熱中症診療ガイドライン改定に向けた研究(課題番号) (19LA2001)」: 研究分担者
- 4) 科学研究費補助金「超高齢社会におけるモビリティ確保と健康・安全・社会的包摂に関する学際研究 (18K10081)」: 研究分担者
- 5) 科学研究費補助金「ASEAN 諸国におけるモビリティ・マネジメントの実行可能性に関する実証分析 (18H01553)」: 研究分担者
- 6) 科学研究費補助金「看護職主導による 2 型糖尿病未治療改善・治療中断予防プログラムの開発 (19K10951)」: 研究協力者

成松 宏人

2 学術論文

- 1) Nakamura S, Narimatsu H, Nakata Y, Sakaguchi M, Konta T, Watanabe M, Ueno Y, Ishizawa K, Yamashita H, Kayama T, Yoshioka T. Efficiency score from data envelopment analysis can predict the future onset of hypertension and dyslipidemia: A cohort study. *Sci Rep.* 2019;9(1):16309. Epub 2019/11/11.
- 2) Nakata Y, Watanabe Y, Narimatsu H, Yoshimura T, Otake H, Sawa T. Japanese surgical resource utilization in 2016. *Int J Health Care Qual Assur.* 2019;32(6):1013-21. Epub 2019/07/10.
- 3) Okamura Y, Yasukawa S, Narimatsu H, Boku N, Fukutomi A, Konishi M, Morinaga S, Toyama H, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sata N, Yamakita K, Takahashi A, Kainuma O, Hishinuma S, Yamaguchi R, Nagino M, Hirano S, Yanagisawa A, Mori K, Uesaka K. The hENT1 expression is a predictor in patients with resected pancreatic cancer treated with adjuvant S-1 chemotherapy. *Cancer science.* 2019. Epub 2019/11/30.
- 4) ゲノム研究の進歩とがん検診 -今までの道のりと未来への期待-, 成松宏人. *日本がん検診・診断学会誌.* 2020;27(2):134-7.

4 学会等での活動

- 1) 成松宏人 「ゲノム研究の進歩とがん検診～今までの道のりと未来への期待～」 第27回日本がん検診・診断学会総会 ランチョンセミナー4 於 新横浜プリンスホテル 2019年9月1日
- 2) 羽田恵梨, 佐藤杏, 瀬畑善子, 清水哲, 谷島和美, 成松宏人: 小学生の娘へ遺伝性乳がん卵巣がん症候群を伝えた1症例. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会, 東京, 6/2019
- 3) 佐藤杏, 羽田恵梨, 上野誠, 菅沼伸康, 山下年成, 成松宏人: がん遺伝子パネル検査を契機に診断された遺伝性乳がん卵巣がん症候群の1家系. 第43回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 札幌, 8/2019
- 4) Ann Sato, Eri Haneda, Nobuyasu Suganuma, Hiroto Narimatsu: Preliminary screening for hereditary breast and ovarian cancer using a chatbot augmented intelligence genetic counselor. 64th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, Nagasaki, 11/2019

5 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県生活習慣病対策委員会: 委員
- 2) 神奈川県生活習慣病対策委員会委員会 がん・循環器病対策部会: 委員
- 3) 神奈川 ME-BYO リビングラボ 専門委員

6 学内教育活動

- 1) 疫学研究
- 2) 疫学演習
- 3) 臨床研究
- 4) ヘルスイノベーション演習

7 学内各種委員会活動

- 1) 入試委員会 委員
- 2) 倫理委員会 委員

8 社会貢献

- 1) 山形大学医学部・非常勤講師(個別化医療)
- 2) 帝京大学公衆衛生大学院・非常勤講師(医療管理学)
- 3) 横浜市立大学・非常勤講師(がんの疫学)
- 4) 非営利活動法人 地域健康プラン理事長

9 講演, 放送

- 1) NARIMATSU, Hiroto “Hybrid” Genomic Cohort Study: A Novel Approach for Innovation
復旦大学公共衛生学院セミナー School of Public Health, Fudan University,
Shanghai, China 2019年4月19日
- 2) 成松宏人 「がんと遺伝～遺伝情報を治療と予防に活かす～」 日本海総合病院 遺伝
カウンセリング研修会 於 日本海 総合病院山形県酒田市 2019年5月28日
- 3) 成松宏人 『「ハイブリッドゲノムコホート」-イノベーションのための新しいアプローチ-』2019
年10月21日 千葉県がんセンター研究所第867回集談会 於千葉県がんセンター
- 4) 成松宏人 「がん予防でいちばん大事なこと-今までの役割、未来への期待- 2019」 令和
元年度保健医療セミナー 於 足柄上合同庁舎 神奈川県大井町 2019年10月23日
- 5) 成松宏人 “ハイブリッド”コホート研究から発信するヘルスイノベーションの可能性 国際シ
ンポジウム「ME-BYO サミット神奈川 2019」分科会 2 未病社会の取り組み
2019年11月13日 於 湯本富士屋ホテル 神奈川県箱根市
- 6) 成松宏人 “ハイブリッド”コホート研究から発信するME-BYO のデザイン 国際シンポジウ
ム「ME-BYO サミット神奈川 2019」分科会 7 ME-BYO でデザインするまちづくり 2019
年11月14日 於 パシフィコ横浜 横浜市
- 7) 成松宏人 「疫学研究のつくりかた」 超入門・公衆衛生学講座 2019年未病産業研究会
有料講座 2019年12月12日 於日本丸メモリアルパーク訓練センター 横浜
市
- 8) 成松宏人. 「お医者さんの世界をのぞいてみよう キャリア教育」於 横浜市立都筑小学校、横
浜、6/2019
- 9) 成松宏人. 「知っておきたいがんの知識-がんの予防から治療まで」出張授業 於 希望ヶ丘
高校(夜間)、横浜、6/2019

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
データ包絡分析法を活用した個別化予防医療の開発
(2017-2020 年度)
代表:成松宏人
- 2) 科学研究費助成事業(科研費)新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」
「コホート・生体試料支援プラットフォーム」
(2016-2021 年度)
分担:成松宏人
- 3) 厚生労働省科学研究費補助金(がん対策推進総合事業)
全国がん登録とがん検診のリンケージによるがん検診勧奨
(2018-2020 年度)
代表:成松宏人 分担:片山佳代子、中村翔、阪口昌彦
- 4) 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
Peer Education による子宮頸がん及び HPV 関連がん予防教育プログラムの開発
(2016-2020 年度)
代表:片山佳代子 分担:成松宏人
- 5) 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
進行膵癌に対するがん化学療法の費用対効果に関する検討 (赤沢 学)
(2019-2024 年度)
代表:赤沢 学 分担:成松宏人
- 6) 中外製薬 がん予防・疫学および骨・間接領域における研究活動
- 7) かながわ県立病院がん基金研究助成 AI を活用した家族性腫瘍拾い上げシステムの開発研究
- 8) ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成 ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成 文部科学省 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム 神奈川県発「ヘルスケア・ニューフロンティア」先導プロジェクト

11 学内研究助成金の受託

- 1) 「グローバルヘルスに還元するがん対策:Kanagawa Shanghai 比較共同研究」ヘルスイノベーション推進研究費 代表成松宏人

八代 嘉美

2 学術論文

- 1) ゲノム編集という名の「パンドラの箱」(生殖/子ども) 八代 嘉美 思想 (1141) 97 - 106 2019年5月(査読なし、招待論文)

3 その他の著作

- 1) Technology & Science ゲノム編集(総特集 現代思想 43のキーワード) 八代 嘉美 現代思想 47(6) 60 - 63 2019年5月
- 2) ナショナルコンソーシアムとは何か? 岡田 潔, 佐藤 陽治, 田畑 泰彦, 畠 賢一郎, 森尾 友宏, 八代 嘉美, 再生医療: 日本再生医療学会雑誌 18(2) 125 - 133 2019年5月

4 学会等での活動

- 1) Shineha Ryuma, Yoshimi Yashiro, International Comparison OF Public Attitude Toward Stem Cell Science and Regenerative Medicine, the ISSCR 2019 Annual Meeting in Los Angeles, CA, 26-29 June
- 2) Yoshimi Yashiro, "Pricing, Reimbursement and Market Access in Japan." International Society for Cell and Gene Therapy annual meeting 2019, Melbourne, Australia. 2019年5月31日
- 3) Yoshimi Yashiro, "Reimbursement of Regenerative and Cell therapy in Japan." Chinese Society of Stem Cell Research annual meeting, Tianjin, China. 2019年9月21日

5 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 文部科学省 特定胚等研究専門委員会 委員
- 2) 日本再生医療学会 理事
- 3) 日本ゲノム編集学会 教育・実習委員
- 4) 日本ゲノム編集学会 倫理・規制委員
- 5) 慶應義塾大学 特定認定再生医療等委員会 委員
- 6) 蒲郡市民病院 特定認定再生医療等委員会 委員
- 7) 東京都健康長寿医療センター 特定臨床研究委員会 委員

6 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科「先端医療における責任ある研究・イノベーション(RRI) I/II」(1年後期前半、後半)
- 2) 再生医療特論(1年後期前半)
- 3) ヘルステクノロジー I/II(1年後期後半、2年前期後半)

7 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 研究倫理委員会 委員長

8 社会貢献

- 1) 大阪大学コミュニケーションデザインセンターワークショップ「新しい医療と、暮らし」講演（2019年7月13日）
- 2) 日本再生医療学会 患者・市民参画セミナー「患者・社会と考える再生医療」東京会場 企画・講演（2019年8月31日）
- 3) 日本再生医療学会 患者・市民参画セミナー「患者・社会と考える再生医療」名古屋会場 企画・講演（2019年12月15日）
- 4) 日本再生医療学会 患者・市民参画セミナー「患者・社会と考える再生医療」長崎会場 企画・講演（2020年1月26日）
- 5) 日本医療研究開発機構（AMED）令和元年度 AMED 再生医療公開シンポジウム「なるほど the 再生医療」講演、パネルディスカッションモデレーター（2020年2月5日）

9 講演，放送

- 1) 11月28日 TBS ラジオ セッション 22 <https://www.tbsradio.jp/433103>
- 2) 12月11日 NHK ニュース (<https://www9.nhk.or.jp/nw9/digest/2019/12/1211.html>)
- 3) 八代嘉美、機械振興協会経済研究所 医療政策研究会、（2019年7月18日、機会振興会館）
- 4) 八代嘉美、再生医療を推進する議員の会「社会実装を推進する勉強会」（2019年8月1日 衆議院第二議員会館地下1階会議室）、
- 5) 八代嘉美、ヒューマンサイエンス振興財団 創薬技術調査版・国内技術ワーキンググループ勉強会（2019年9月5日、ヒューマンサイエンス振興財団）
- 6) 八代嘉美、第5回再生医療産学連携バリューチェーンセミナー（2019年9月24日）

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

- 1) JST 「コストの観点からみた再生医療普及のための学際的リサーチ」（研究代表者）
- 2) セコム科学技術振興財団「効率的な再生医療の提供に向けた政策課題解決のための研究」（研究代表者）
- 3) 日本学術振興会「RRIの新展開のための理論的・実践的研究－教育・評価・政治性に注目して」（研究分担者）

14 その他

- 1) 読売新聞、毎日新聞など記事掲載

吉田 穂波

1 著書

- 1) 吉田穂波、瀧本秀美. 第9章 母子保健 In:健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 (第6版) 南江堂, 東京. 2019年
- 2) Honami Yoshida. Population Studies of Japan - Lessons Learned from the Great East Japan Earthquake - Birth Outcomes in a Catastrophe in a Highly Aged Society. Springer. Singapore.in press. ISBN: 978-981-10-4391-8
<https://www.springer.com/gp/book/9789811043901>

2 学術論文

- 1) Ai Tashiro, Kayako Sakisaka, Etsuji Okamoto, Honami Yoshida. Infant, neonatal, and postneonatal mortality trends in a disaster region and in Japan, 2002-2012: a multi-attribute compositional study. BMC Public Health. 2019;19:1085
- 2) 盛一享徳、豊島勝昭、猪谷泰史、吉田穂波. 極低出生体重児の育児支援に必要な臨床情報の病院内システムからの自動抽出が可能な Personal Health Record (PHR) を利用した養育者との情報共有システムの構築. 日本遠隔医療学会雑誌 (Japanese journal of telemedicine and telecare). 2019;15(1):25-30.
- 3) 吉田穂波. 支援者のための支援～受援力スキルの強化. 臨床助産ケア 2019;11(2):108-115
- 4) Ai Tashiro, Kayako Sakisaka, Etsuji Okamoto, Honami Yoshida, Differences in infant and child mortality before and after the Great East Japan Earthquake and Tsunami: a large population-based ecological study. BMJ Open 8(11):e022737_2019;8:e022737. doi:10.1136/bmjopen-2018-022737

3 その他の著作

- 1) 吉田穂波. 災害時の母子保健. 月刊母子保健. 2019;719:1-4
- 2) 吉田穂波. 妊産婦や乳幼児を連れた家族が本当に必要としている災害時の支援とは?. 近代消防. 2019;699:48-51、2019
- 3) 吉田穂波. 支援者のための支援～受援力スキルの強化. 臨床助産ケア. 2019;11(2):108-115
- 4) 吉田穂波. 女性のキャリア形成におけるプレコンセプションケア. 産婦人科の実際. 2019;68(19):1207-1214
- 5) 吉田穂波. 仕事も家庭も相乗効果の WIN-WIN 術. 群馬県母性衛生学会誌. 2020:51:16-19

5 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県 アドバイザー 政策局 ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室
神奈川県 政策局 ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室 アドバイザー

- 2) 神奈川 ME-BYO リビングラボ専門委員
- 3) 未病指標の社会システム化に向けた研究会委員
- 4) 神奈川 ME-BYO ブランド審査会委員
- 5) 神奈川 ME-BYO スタイルアドバイザー
- 6) 世田谷区 福祉避難所（母子）検討部会委員
- 7) 世田谷区 福祉避難所（母子）検討における助言ならびに研修講師
- 8) 横浜市男女共同参画推進協会・男女共同参画センター横浜 相談事業実施におけるアドバイスならびに「からだ性と性の相談」振り返りの会における講演及び講評
- 9) 公衆衛生学会 広報・啓発委員会委員
- 10) 一般社団法人日本家族計画協会 研究倫理審査委員会審査委員
- 11) 日本周産期メンタルヘルス学会 評議員
- 12) 厚生労働省医政局医道審議会専門委員
- 13) 女性防災ネットワーク東京 理事

6 学内教育活動

- 1) ヘルスコミュニケーション（ヘルスイノベーション研究科，科目責任者）
- 2) 健康危機管理学（ヘルスイノベーション研究科）
- 3) 健康行動科学（ヘルスイノベーション研究科，講義を1回担当）
- 4) 課題研究指導教員
- 5) フィールド実習指導教員

7 学内各種委員会活動

- 1) 国際協働委員会
- 2) ヘルスイノベーション研究科教務委員会
- 3) ヘルスイノベーション研究科入試委員会
- 4) ヘルスイノベーション研究科国際委員会

8 社会貢献

- 1) 内閣府子ども・子育て本部「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」審査委員、一般社団法人日本家族計画協会倫理審査委員会委員
- 2) 神奈川県 政策局 ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室 アドバイザー
- 3) 神奈川 ME-BYO リビングラボ専門委員
- 4) 未病指標の社会システム化に向けた研究会委員
- 5) 神奈川 ME-BYO ブランド審査会委員
- 6) 神奈川 ME-BYO スタイルアドバイザー
- 7) 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会男女共同参画センター横浜 相談事業アドバイザー（産婦人科領域）
- 8) 東京都世田谷区福祉避難所（母子）検討委員
- 9) 厚生労働省医政局医道審議会専門委員
- 10) 日本公衆衛生学会広報・啓発委員会委員

- 11) 日本医科大学付属病院臨床研修センター 非常勤講師
- 12) 中央大学総合政策学部 客員研究員
- 13) 国立保健医療科学院 客員研究員

9 講演, 放送

【講演】

～2019年～

- 1) 「受援力のススメ」: 日本医科大学付属病院、4/2
- 2) チーム STEPPS 研修: 日本医科大学付属病院、4/5
- 3) 特別区保健師会教育研究会: ティアラこうとう、4/26
- 4) 「女性の健康と笑顔が地域や職場を元気にする」: 公益社団法人横須賀法人会、5/21
- 5) 杉並区主催「防災講演会」: セシオン杉並 (社会教育センターホール)、5/24
- 6) 「女性のからだところ」: 十文字学園女子大学、6/10
- 7) 子育て講座: 日野市立万願寺交流センター、6/13
- 8) 和つなぎサポーター養成講座: 和田区民集会場所、6/14
- 9) 「家族でしておきたい災害時の備え～医療的ケアのある子を守るために～」: 小田原保健福祉事務所、6/19
- 10) 臨床研修セミナー「日々の健康維持から繋がるキャリアアップ」: 愛知医科大学附属病院、6/21
- 11) 「働く女性のヘルスケア支援」: ミューザ川崎、6/27
- 12) 宮城県災害医療従事者研修会「災害時の母子支援」: 東北大学、6/29
- 13) 「医療とボランティア」: 帝京大学、7/3
- 14) 「千葉大学 Public health. 実践講座」千葉大学医学部、7/4
- 15) 「埼玉県助産師会さいたま市地区研修会 災害時の母子支援活動」済生会病院、7/13
- 16) 「医学部進学フォーラム基調講演」: JP タワー、7/15
- 17) 母子保健支援者研修「災害時の母子保健について～平時の準備や災害時の対応について考える」: 平塚保健福祉事務所、8/2
- 18) 「ままのわ ミニセミナー災害編」: 茂原市長生郡医師会、8/17
- 19) 「公衆衛生に係る人材の確保・育成に関する調査および実践」: 全国保健所長会、8/24.25
- 20) 「こころの健康づくり講演会」: 四日市市保健所、8/30
- 21) 「日本の災害時母子救護の課題と新たな取り組み」: 茨城県助産師会館、9/1
- 22) 「災害時の母子保健」: 日本災害看護学会_第21回年次大会、北見工業大学、9/6
- 23) 和つなぎサポーター養成講座: 和田区民集会場所、9/9
- 24) 「ライフプランニングと切れ目ない子育て支援」: 内閣府 子ども・子育て本部「第4次少子化社会対策大綱策定のための検討会」、9/11
- 25) プラスワンセミナーⅢ「女性と健康格差」: 文京区男女平等センター、9/12
- 26) 「災害時の母子を守るための支援を考える」: 長野県松本保健福祉事務所、9/13
- 27) 令和元年度専門研修 地域保健「災害時の母子保健」: "特別区人事・厚生事務組合 (特別区職員研修所)、10/15

- 28) 「災害時の母子支援」函館市女性会議、11/2
- 29) 「災害時の母子支援」長野県大町合同庁舎、11/11
- 30) ワークライフバランスとキャリア形成：愛知医科大学、11/22
- 31) 「災害時の母子支援」石川県金沢合同庁舎、11/27
- 32) 「災害時の親子を守る」：横浜市生活クラブ（フォーラムアソシエ）、12/2
- 33) 「ワークライフバランスとキャリア」：群馬県母性衛生学会、12/7
- 34) 医療安全ワークショップ「チーム STEPPS」：関東信越厚生局、12/10
- 35) 自殺予防対策講演：上足柄中井町中学校、12/20

～2020年～

- 36) 切れ目ない子育て支援講演：愛媛県立医療保健大学、2020/1/8
- 37) 災害時母子支援講演：横浜市役所、1/17
- 38) 災害時母子支援研修：大阪府看護協会、1/18
- 39) 災害時母子支援研修：家族計画協会、1/19
- 40) 自分らしいワークライフバランス：JKSK、1/25
- 41) 杉並区子育て支援講演会：杉並区、1/27
- 42) 「女性の健康」講演：横浜市男女共同参画センター、2/6
- 43) 災害時支援研修：神奈川県看護協会災害対応講演、2/8
- 44) 災害時母子支援研修会：台東区保健所、2/10
- 45) 災害時母子支援研修：家族計画協会災害研修、2/16
- 46) リプロダクティブ・ヘルツ&ライツ講演：香蘭女子大学、2/18
- 47) 災害保健医療研修：兵庫県災害医療センター、2/23

【放送】

- 1) 「あれから～311を忘れない」：NHK ラジオ、7/13
- 2) 「災害時要配慮者へのまなざしと防災」：TBS ラジオ、10/13
- 3) 「すくすく子育て」：NHK 教育、11/6
- 4) 「災害時の親子を守る」：ラジオにっぽん、12/31

【取材記事】

- 1) 「広がる災害時母子避難所」：読売新聞、10/9
- 2) 「医師になるには」：日経 MOOK、11/13

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

- 3) 厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業））課題番号：H30-健やか-指定-008「乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究」（研究代表者：横山 徹爾）
- 4) 厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）課題番号：19DA2002「災害に対応した母子保健サービス向上のための研究」（研究代表者：小枝 達也）
- 5) 厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「国土強靱化

計画をふまえ、地域の実情に応じた災害医療提供体制に関する研究」(研究代表者：小井土雄一) 分担研究課題「周産期・小児医療提供体制に関する研究」

- 6) 令和元年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」(研究代表者：宮園将哉)

11 学内研究助成金の受託

- 1) 令和元年度 SHI 研究推進研究費「ヘルスコミュニケーション実践研究～健康行動の後押しをする仕掛けづくり」(研究代表者)

津野 香奈美

1 著書

- 1) 津野香奈美 (共同監修), 医療情報科学研究所 (編)「職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営」, 株式会社メディックメディア, 2019年12月

2 学術論文

- 1) Rugulies R, Ando E, Ayuso-Mateos JL, Bonafede M, Cabello M, Di Tecco C, Dragano N, Durand-Moreau Q, Eguchi H, Gao J, Garde AH, Iavicoli S, Ivanov ID, Leppink N, Madsen IEH, Pega F, Prüss-Üstün AM, Rondinone BM, Sørensen K, Tsuno K, Ujita Y, Zadow A. WHO/ILO work-related burden of disease and injury: Protocol for systematic reviews of exposure to long working hours and of the effect of exposure to long working hours on depression. *Environ Int* 125:515-528, 2019.
- 2) Eskin M, Poyrazli S, Janghorbani M, Bakhshi S, Carta MG, Moro MF, Tran US, Voracek M, Mechri A, Aidoudi K, Hamdan M, Nawafleh H, Sun JM, Flood C, Phillips L, Yoshimasu K, Tsuno K, Kujan O, Harlak H, Khader Y, Shaheen A, Taifour S. The Role of Religion in Suicidal Behavior, Attitudes and Psychological Distress Among University Students: A Multinational Study. *Transcult Psychiatry*. 2019; 56(5): 853-877.
- 3) Tsuno K, Kawachi I, Inoue A, Nakai S, Tanigaki T, Nagatomi H, Kawakami N; JSTRESS Group. Long working hours and depressive symptoms: moderating effects of gender, socioeconomic status, and job resources. *Int Arch Occup Environ Health* 92(5):661-672, 2019
- 4) Imamura K, Tsutsumi A, Asai Y, Arima H, Ando E, Inoue A, Inoue R, Iwanaga M, Eguchi H, Otsuka Y, Kobayashi Y, Sakuraya A, Sasaki N, Tsuno K, Hino A, Watanabe K, Shimazu A, Kawakami N. Association between psychosocial factors at work and health outcomes after retirement: a protocol for a systematic review and meta-analysis. *BMJ Open* 9(8):e030773, 2019.
- 5) Kim Y, Zaitso M, Tsuno K, Li X, Lee S, Jang SN, Kawachi I. Occupational Differences in C-Reactive Protein Among Working-age Adults in South Korea. *J Occup Environ Med*. 2020; 62(3): 194-201.
- 6) Iida M, Watanabe K, Ando E, Tsuno K, Inoue A, Kurioka S, Kawakami N. The Association between Unit-level Workplace Social Capital and Intention to Leave Among Employees in Health Care Settings: A Cross-sectional Multi-level Study. *J Occup Environ Med*. 2020 [Epub ahead of print]
- 7) Eskin M, Tran US, Carta M, Poyrazli S, Flood S, Mechri A, Shaheen A, Janghorbani M, Khader YS, Yoshimasu K, Sun JM, Kujan O, Abuidhail J, Aidoudi K, Bakhshi S, Harlak H, Moro M, Phillips L, Hamdan M, Abuderman A, Tsuno K, Voracek M. Is individualism suicidogenic? Findings from a multi-national study

of young adults from 12 countries. *Frontiers in Psychiatry, section Public Mental Health*. 2020

- 8) 松高由佳, 大塚泰正, 飯田順子, 藤圭, 津野香奈美, 島田恭子, 堀口康太, 遠藤寛子. 産業保健スタッフを対象とした性的マイノリティへの適切な対応を促進する研修プログラムの留意点に関する検討. *総合保健科学* 36, 2020

3 その他の著作

- 1) 津野香奈美. 今から 20 年度の産業ストレス分野における課題. *産業ストレス研究* 26(3): 299-301, 2019
- 2) 津野香奈美. 科学的根拠をもとに進めるメンタルヘルス対策とハラスメント対策 (3) パワハラを直接受けていなくても, パワハラが発生している職場に勤務しているとメンタルヘルス不調になる可能性が高くなる. *クオレ・シー・キューブ ハラスメント情報館 ハラスメント対策最前線*, 2019
https://www.cuorec3.co.jp/info/thinks/tsuno_01_03.html
- 3) 津野香奈美. パワハラのスピルオーバー (波及) 効果. *月刊人事労務* 366: 10-13, 2019
- 4) 津野香奈美. 科学的根拠をもとに進めるメンタルヘルス対策とハラスメント対策 (4) 「放任型上司」に潜むリスク. *クオレ・シー・キューブ ハラスメント情報館 ハラスメント対策最前線*, 2019
https://www.cuorec3.co.jp/info/thinks/tsuno_01_04.html
- 5) 津野香奈美. 産業保健の観点から考えるパワハラ予防対策. *ビジネス・レーバー・トレンド* 530: 14-19, 2019
- 6) 津野香奈美. 科学的根拠をもとに進めるメンタルヘルス対策とハラスメント対策 (4) 「放任型上司」に潜むリスク. *クオレ・シー・キューブ ハラスメント情報館 ハラスメント対策最前線*, 2019
https://www.cuorec3.co.jp/info/thinks/tsuno_01_04.html
- 7) 津野香奈美. 職場のパワーハラスメント: 法制化と最近の動向. *産業医学レビュー* 32(3): 151-179, 2020
- 8) 津野香奈美. 連載「ハラスメントをしないさせないために」第 1 回 パワーハラスメント問題のこれまでの経緯. *安全と健康* 71(1): 88-90, 2020
- 9) 津野香奈美. 連載「ハラスメントをしないさせないために」第 2 回 法律によって事業主に義務付けられるパワハラ防止対策. *安全と健康* 71(2): 76-79, 2020
- 10) 津野香奈美. 連載「ハラスメントをしないさせないために」第 3 回 パワーハラスメント防止指針の解説. *安全と健康* 71(3): 92-96, 2020
- 11) 津野香奈美. 連載「教えて! 健康管理室のアライさん: LGBTQ+従業員支援のための基礎知識」第 1 回 LGBTQ+について教えて下さい. *産業保健と看護* 12(2): 68-71, 2020
- 12) 津野香奈美. 科学的根拠をもとに進めるメンタルヘルス対策とハラスメント対策 (5) SOGI ハラって? LGBT とハラスメント. *クオレ・シー・キューブ ハラスメント情報館 ハラスメント対策最前線*, 2020

https://www.cuorec3.co.jp/info/thinks/tsuno_01_05.html

- 13) 津野香奈美 . カレントトピックス 新しいハラスメント指針. 産業ストレス研究 27(2), 2020

4 学会等での活動

(発表)

- 1) 津野香奈美, 島津明人, 島田恭子, 安藤絵美子, 井上彰臣, 栗岡住子, 川上憲人. 職場の尊重度(シビリティ)尺度日本語版の信頼性・妥当性検証と属性別得点比較. 第92回日本産業衛生学会(名古屋市), 2019年5月
- 2) 竹村重輝, 吉益光一, 津野香奈美, 福元仁, 黒田基嗣, 宮下和久. 主に林業に従事する者の振動障害特殊健康診断を通じた保健指導: 肥満・高血圧・喫煙. 第92回日本産業衛生学会(名古屋市), 2019年5月
- 3) 吉村健佑, 江口尚, 津野香奈美, 今村幸太郎, 窪田和巳. 「職場のメンタルヘルス若手研究者・実務者の会」活動報告: 若手主体で行動する試み. 第92回日本産業衛生学会(名古屋市), 2019年5月
- 4) 柳沼梢, 齋藤長徳, 片山一男, 笠原賀子, 佐々木裕子, 津野香奈美, 吉益光一, 仲井邦彦. 管理栄養士・栄養士のストレス状況に関する横断調査-調査方法と中間報告-. 第92回日本産業衛生学会(名古屋市), 2019年5月
- 5) 大塚泰正, 松高由佳, 津野香奈美, 藤桂, 堀口康太, 飯田順子, 遠藤寛子, 島田恭子. セクシュアル・マイノリティへの理解と支援を促進させるための研修プログラムのパイロットスタディ. 第26回日本産業精神保健学会(東京), 2019年8月
- 6) 柳沼梢, 齋藤長徳, 片山一男, 笠原賀子, 佐々木裕子, 津野香奈美, 吉益光一, 仲井邦彦. 管理栄養士・栄養士のストレス状況に関する横断調査-調査方法と中間報告-. 第66回日本栄養改善学会(富山市), 2019年9月
- 7) 津野香奈美, 山本眞弘, 梅本秀俊, 辻あさみ. 職場のインシビリティ(礼節の欠如)と抑うつ症状との関連: 前向きコホート研究. 第27回日本産業ストレス学会(大阪市), 2019年11月
- 8) 津野香奈美, 大塚泰正, 藤桂, 松高由佳, 飯田順子, 堀口康太, 島田恭子, 遠藤寛子. LGBT等の性的マイノリティ労働者における暴力の経験と精神的健康状態. 第23回日本行動医学会(東京), 2019年12月
- 9) 津野香奈美, 山本眞弘, 辻あさみ. 職場における礼節の欠如は1年後の抑うつ症状と関連する: 某大学法人における前向きコホート研究. 第30回日本疫学会学術総会(京都市), 2020年2月
- 10) 柳沼梢, 津野香奈美, 吉益光一, 佐野裕子, 前田有秀, 仲井邦彦. 保育者のストレス状況に関する横断調査. 第90回日本衛生学会(盛岡市), 2020年3月

(座長等)

- 1) 生涯教育委員会若手論文賞講演会コメンテーター: 第92回日本産業衛生学会(名古屋市), 2019年5月
- 2) 一般演題座長: 第27回日本産業ストレス学会(大阪市), 2019年11月

5 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 日本産業カウンセラー協会 産業カウンセラー 2014.4～
- 2) 日本産業ストレス学会 理事・評議員 2014.11～
- 3) 日本産業ストレス学会 編集委員 2015.1～
- 4) 公益財団法人 21世紀職業財団 ハラスメント防止コンサルタント 2015.3～
- 5) 労働時間日本学会 理事 2016.6～
- 6) 日本行動医学会 理事・編集委員・将来構想委員会委員長 2016.7～
- 7) 日本産業衛生学会 代議員 2018.11～
- 8) Journal of Occupational Health Assistant Editor 2020.3～
- 9) 日本疫学会 疫学専門家 2020.3～

6 学内教育活動

- 1) 健康行動科学（ヘルスイノベーション研究科，科目責任者）
- 2) 社会健康学・社会疫学（ヘルスイノベーション研究科，科目責任者）
- 3) 産業保健学（ヘルスイノベーション研究科，講義を6回担当）
- 4) ヘルスイノベーション演習基礎（ヘルスイノベーション研究科）

7 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科研究倫理審査会委員（通年）
- 2) ヘルスイノベーション研究科企画担当委員（通年）
- 3) ヘルスイノベーション研究科学生担当委員（通年）
- 4) ヘルスイノベーション研究科面接委員（一次選考・二次選考）

8 社会貢献

- 1) 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 客員研究員（通年）
- 2) 岐阜大学産業保健学部 非常勤講師（2019.10～）
- 3) 株式会社クオレ・シー・キューブ 顧問（通年）
- 4) 自治労等で地方公務員を対象とした講演・研修実施（通年）
- 5) 神奈川県庁 セクシュアル・マイノリティ支援への助言（通年）
- 6) 厚生労働省 過労死等防止対策推進シンポジウムへの登壇（2019年11月）
- 7) 警察庁 産業保健スタッフへの研修実施（2020年2月）
- 8) 神奈川県 未病産業研究会での講義実施（2020年2月）
- 9) 12か国の大学との自殺に関する国際共同研究実施（通年）
- 10) WHO、ILO との労働時間に関する国際共同研究実施（通年）
- 11) 米国ハーバード公衆衛生大学院との共同研究実施（通年）

9 講演，放送

（講演）

- 1) 東京大学職場のメンタルヘルス専門家交流会 講演「パワー・ハラスメントの定義とその健康影響」2019年6月

- 2) 相模原市現業評議会組織強化学習会 講演「パワー・ハラスメントに関する基本的知識と対策」2019年6月
- 3) 株式会社クオレ・シー・キューブ 職場のいじめとハラスメント国際学会参加報告会 講演「職場でのハラスメント～海外事情～」2019年6月
- 4) 2019年度大都市基金支部事務長会議 講演「パワー・ハラスメントに関する基本的知識と対策」2019年7月
- 5) 筑波大学セクシュアル・マイノリティへの適切な対応について考えるワークショップ全4回 講演「LGBTQsとハラスメント」2019年8月～11月
- 6) 日本生産性本部健康いきいき職場づくりフォーラム 2019 秋季定例セミナー 講演「ハラスメントを未然防止する職場環境づくり」2019年10月
- 7) 東京大学職場のメンタルヘルス専門家養成プログラムイブニングセミナー 講演「職場のメンタルヘルスの専門家としてハラスメント問題に対応する」2019年10月
- 8) 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 精神保健学Ⅱ講義「職場のいじめとメンタルヘルス」2019年10月
- 9) 厚生労働省「過労死等防止対策推進シンポジウム」（茨城会場） 講演「パワハラ法制化と今後のパワハラ対策」2019年11月
- 10) 厚生労働省「過労死等防止対策推進シンポジウム」（栃木会場） 講演「パワハラ法制化と今後のパワハラ対策」2019年11月
- 11) 厚生労働省「過労死等防止対策推進シンポジウム」（福岡会場） 講演「パワハラ法制化と今後のパワハラ対策」2019年11月
- 12) 厚生労働省「過労死等防止対策推進シンポジウム」（大分会場） 講演「パワハラ法制化と今後のパワハラ対策」2019年11月
- 13) 岐阜大学産業保健学部 産業衛生学講義「パワハラ防止によるあかるい職場づくり」2019年12月
- 14) 株式会社クオレ・シー・キューブ 相談員研修 講演「パワハラに関するエビデンスと今後のパワハラ対策」2019年12月
- 15) 慶応義塾大学 産業保健心理学講義「職場のいじめ・ハラスメントとメンタルヘルス」2019年12月
- 16) 国際基督教大学 nijiVOICE2019 報告会コメント 2020年1月
- 17) 警察庁 全国警察産業保健スタッフ研修会「科学的根拠に基づく産業保健活動の進め方～実践・データを集めてまとめて伝えるワザ～」2020年2月
- 18) 自治労 労働安全衛生講座 講演「メンタルヘルス、パワハラに関する基本的知識と対策」2020年2月
- 19) 神奈川県 未病産業研究会 講義「健康行動科学」2020年2月

(放送等)

- 1) 南日本新聞「長時間労働 健康へどう関係 女性、若手うつリスク増」2019年8月20日
- 2) 静岡新聞「長時間労働の健康影響 うつ病リスク 女性、若手で高く」2019年8月20日

- 3) 下野新聞「長時間労働の影響 若手や女性にうつリスク」2019年8月20日
 - 4) 中國新聞「残業80時間超になると…女性・若手うつリスク増」2019年8月21日
 - 5) 琉球新報「長時間労働の健康影響 女性, 40歳未満 高リスク」2019年8月21日
 - 6) 日本海新聞「長時間労働の健康影響 女性, 若手でうつリスク増」2019年8月22日
 - 7) 大分合同新聞「長時間労働によるうつ病 「女性」「若手」リスク増」2019年8月26日
 - 8) 山形新聞「長時間残業・パワハラの影響 女性, 若手 うつリスク増」2019年8月26日
 - 9) 沖縄タイムス「残業80時間超え 女性・若者に影響」2019年8月28日
 - 10) 神奈川新聞「長時間労働の健康被害 女性, 若手にうつリスク増」2019年9月2日
 - 11) 神戸新聞「職場での健康影響調査 残業月80時間超 女性, 若手うつリスク増 いじめ, パワハラ 周囲の人も強いストレス」2019年9月2日
 - 12) 岩手日報「長時間労働が要因に 女性, 若手うつリスク」2019年9月6日
 - 13) 千葉日報「長時間労働の健康影響 女性, 若手でうつリスク増」2019年9月8日
 - 14) 埼玉新聞「長時間労働の健康影響 女性, 若手でうつリスク増加」2019年9月11日
 - 15) 信濃毎日新聞「長時間労働の健康への影響 女性や若手 うつリスク増」2019年9月13日
 - 16) 高知新聞「働く若い女性 うつ危険増」2019年9月13日
 - 17) 京都新聞「長時間労働が及ぼす健康影響 女性, 若手らでうつリスク増」2019年9月14日
 - 18) 岐阜新聞「残業が月80時間を超えると 女性, 若手 うつ病リスク増」2019年9月21日
 - 19) 山梨日日新聞「長時間労働が健康に影響 女性や若手 うつリスク増」2019年10月7日
 - 20) 秋田さきがけ「長時間労働 心のストレスに 女性, 若手うつリスク増」2019年10月19日
 - 21) 読売新聞「過労死・パワハラ考える」2019年11月29日
 - 22) 西日本新聞「パワハラ, 次々悪影響」2019年12月6日
- 10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託
- 1) 2017～2019年度日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤B「セクシュアル・マイノリティへの適切な対応を促進する産業保健スタッフ向け研修の開発」(課題番号: 17H02640) 研究分担者
 - 2) 2017～2019年度日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤B「幼児の多動と注意欠如に関連する因子の縦断的検討: 出生コホート調査による展開」(課題番号: 17H02189) 研究分担者
 - 3) 2017～2019年度日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤B「遺伝および環境要因の共分散構造モデルに基づく発達障害発症および重症化機序の解明」(課題番号: 17H04137) 研究分担者
 - 4) 2019～2021年度日本学術振興会 科学研究費補助金 若手「労働時間や職場風土と

従業員の健康・生産性との関連：職場外要因を含めた複合的検討」（課題番号：19K19439）研究代表者

12 受賞

- 1) 第26回日本行動医学会 優秀演題賞，2019年12月

中村 翔

2 学術論文

- 1) Takeda H, Ohe R, Fukui T, Suzuki S, Nakamura S, Watanabe K, Yoshioka T. Rapid Progression of Intracranial Dural Metastases in a Patient with Carcinoma of Unknown Primary Site. *Case Rep Oncol.* 2019; 12(2): 666-670.
- 2) Nakamura S, Narimatsu H, Nakata Y, Sakaguchi M, Konta T, Watanabe M, Ueno Y, Ishizawa K, Yamashita H, Kayama T, Yoshioka T. Efficiency score from data envelopment analysis can predict the future onset of hypertension and dyslipidemia: A cohort study. *Sci Rep.* 2019; 9(1): 16309.

4 学会等での活動

- 1) 鈴木修平, 高橋鴻志, 渡邊要, 中村翔, 吉岡孝志, 小沼健明, 久連山愛. 化学療法中の進行癌患者との実際の談話を含む高校生向け癌臨床教育プログラムの検討と考察. 第116回日本内科学会総会・講演会. ポスターセッション. 平成31年4月28日(名古屋)
- 2) 神田 悟, 中村 翔, 鈴木 尚樹, 渡邊 要, 武田 弘幸, 鈴木 修平, 福井 忠久, 吉岡 孝志. 外気温が低いとオキサリプラチンの末梢神経障害が増悪するかを検討した後方視的研究. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会. ポスターセッション. 令和1年7月20日(京都)
- 3) 青木聖子, 鈴木尚樹, 渡邊要, 中村翔, 武田弘幸, 鈴木修平, 福井忠久, 吉岡孝志. 化学療法中の進行癌患者との実際の談話を含む高校生向け癌臨床教育プログラムの検討と考察. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会. ポスターセッション. 令和1年7月20日(京都)
- 4) 鈴木尚樹, 渡邊要, 中村翔, 武田弘幸, 鈴木修平, 福井忠久, 吉岡孝志. 腰椎原発adamantinomaの1例. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会. ポスターセッション. 令和1年7月20日(京都)
- 5) 中村翔, 阪口昌彦, 成松宏人. Data Envelopment Analysisを用いた予防医療確率への挑戦. 日本オペレーションズ・リサーチ学会2019年秋季研究発表会. 令和1年9月12日(広島)
- 6) 鈴木尚樹, 神田悟, 佐野町友美, 邨野千尋, 高橋鴻志, 渡邊要, 武田弘幸, 中村翔, 鈴木修平, 福井 忠久, 吉岡孝志. 肺門・縦隔リンパ節腫脹が主体の、ホルモン療法でDICの改善を認めた前立腺癌の1例. 第57回日本癌治療学会学術集会. 令和1年10月24日(福岡)
- 7) 中村翔. 肥満の遺伝×環境相互作用研究およびオペレーションズ・リサーチの応用研究: 高血圧の一次予防研究. 令和元年度コホート・生体試料支援プラットフォーム若手支援研究成果発表会. 令和2年1月21日(豊橋)
- 8) 斎藤裕磨, 施建明, 中村翔, 成松宏人. 凸包とデータの距離による2型糖尿病の判別. 日本オペレーションズ・リサーチ学会2020年春季研究発表会. 令和2年3月12日

(奈良)

5 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 神奈川県 ME-BYO リビングラボ専門委員（平成 31 年 4 月～）

6 学内教育活動

- 1) 大学院（修士課程）
疫学研究 / 疫学演習 / 臨床試験 / ヘルスイノベーション演習基礎 / ヘルスイノベーション演習

7 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科研究倫理審査委員
- 2) 図書委員会

8 社会貢献

- 1) 中村翔. 町民参加型講座「人生の終い方」講演会実施結果について. 山形県東置賜郡高島町 在宅医療・介護連携推進協議会「全体会」. 令和 1 年 5 月 24 日. (高島)
- 2) 中村翔. 職場におけるメンタルヘルスについて. 山形県東置賜郡高島町福祉こども課 障がい者福祉係主催「町職員ゲートキーパー養成講座」. 令和 1 年 10 月 31 日、11 月 1 日. (高島)
- 3) 中村翔, 渡邊要, 五十嵐絵美. 人生の終い方. 山形県東置賜郡高島町 高島町地域包括ケアシステム在宅医療・介護連携推進事業. 令和元年 11 月～令和 2 年 1 月. (高島)
- 4) 中村翔. いつの間にか糖尿病?!にならないために. 山形県東置賜郡高島町糖尿病予防教室. 令和 2 年 1 月～3 月. (高島)

9 講演，放送

- 1) 中村翔. 生活習慣と DNA の関係性を解き明かす「神奈川県みらい未病コホート研究」の取組み. ME-BYO Japan 2019 来場者向けセミナー. 令和 1 年 10 月 9 日 (横浜)
- 2) 中村翔. 遺伝性腫瘍の診療経験から一次予防への臨床応用を考える. 第 4 回ゲノムコホート研究における遺伝統計学. 令和 1 年 11 月 14 日 (名瀬)
- 3) 中村翔. 遺伝環境相互作用の解明 ～「神奈川県みらい未病コホート」の取組み～. 神奈川県立がんセンター第 5 回臨床研究所セミナー. 令和 1 年 11 月 25 日 (横浜)

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

- 1) 科学研究費助成事業 若手研究(B). 課題番号：17K17614「ゲノム変異と腸内細菌叢を組み合わせた肥満リスク層別化研究」. (代表研究者)
- 2) 厚生労働科学研究費補助金. 疾病・障害対策研究分野 がん対策推進総合研究. テーマ「全国がん登録とがん検診のリンケージによるがん検診勧奨」. (分担研究者)

11 学内研究助成金の受託

- 1) ヘルスイノベーション推進研究費. 「骨関節疾患と腸内細菌叢との関連解析による骨関節疾患リスクモデルの構築ーゲノムコホートデータを活用してー」. (代表研究者)

方 雪敏

2 学術論文

- 1) "CEA response at four weeks as an early predictor for outcomes in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC) treated with first-line cetuximab-based chemotherapy: A STEP-analysis in the JACCRO CC-05/06 trials, Journal of Clinical Oncology. 37. 543-543. 10.1200/JCO.2019.37.4_suppl.543. Sunakawa Y., Fang, X., Kotaka M., Tanioka H., Takagane A., Tani S., Yamaguchi T., Watanabe T., Masuishi T., Tsuda M., Okuno T., Tamura T., Furushima K., Kuramochi H., Koike J., Yonemura Y., Yasui H., Takeuchi M., Fujii M., Ichikawa W.
- 2) Meta-Enrichment Analyses to Identify Advanced Gastric Cancer Patients Who Achieve a Higher Response to S-1/Cisplatin, Cancers 2019, 11(6), 871., Takeuchi M., Ajani J., Fang, X., Pfeiffer P., Takeuchi M., van Laarhoven H.,

6 学内教育活動

- 1) 生物統計学基礎
- 2) 生物統計学演習

7 学内各種委員会活動

- 1) SD. FD 委員会

8 社会貢献

- 1) 神奈川県未病産業研究会主催「超入門公衆衛生学」講師，2020年1月17日，横浜.

11 学内研究助成金の受託

- 1) ヘルスイノベーション推進研究費、50万

渡邊 亮

1 著書

- 1) 古賀雄二、深谷智恵子(編)、渡邊亮、ほか「日常性の再構築をはかるクリティカルケア看護：基礎から臨床応用まで」(令和元年7月)、中央法規出版：東京。

2 学術論文

- 1) Hirose, D., Shimizu, S., Hirao, K., Ogawa, Y., Sato, T., Kaneko, Y., Takenoshita, N., Namioka, N., Fukasawa, R., Umahara, T., Sakurai, H., Watanabe, R., & Hanyu, H. (2019). Neuroimaging Characteristics of Frailty Status in Patients with Alzheimer's Disease. *Journal of Alzheimer's Disease*. 2019;67(4): 1201-1208.
- 2) 阪口博政, 渡邊亮, 荒井耕. (2019). 「DPC/PDPS 対象病院における原価計算システムの構築と運用の課題」『日本医療・病院管理学会誌』 56(3): 5-11.
- 3) 阪口博政, 渡邊亮, 横谷進, 荒井耕. (2019). 「政策医療の定義と採算性改善手段についての認識 ―小児医療を主な対象としたアンケート調査の計量テキスト分析―」『国際医療福祉大学学会誌』 24(2): 26-36.
- 4) Fukuda, H., Yano, Y., Sato, D. Ohde, S., Noto, S., Watanabe, R., & Takahashi, O. (2019). Healthcare Expenditures for the Treatment of Patients Infected with Hepatitis C Virus in Japan. *PharmacoEconomics*. 2019. doi:10.1007/s40273-019-00861-x

4 学会等での活動

- 1) Watanabe, R. (November, 2019). Driving Health Innovation to Achieve the Healthy Ageing Society: Effort of Local Government in Japan. *Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health 51st Conference*; Bangkok.
- 2) 渡邊亮・小林大介・佐藤大介(2019年7月)「医療情報連携ネットワークの利活用に関する現状と課題の検討」『神奈川県立保健福祉大学 研究発表会』

5 学会、協会、公的団体の委員など

- 1) 一社)日本医療情報学会 医療情報技師育成部会広報渉外委員会委員
- 2) 一社)日本医療情報学会 選挙管理委員会委員
- 3) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 科学技術調査員
- 4) 一橋大学社会科学高等研究院 医療政策・経済研究センター 客員研究員

6 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 「健康・医療政策」(修士1年前期)
- 2) ヘルスイノベーション研究科 「未病社会のライフデザイン」(修士1年後期)

7 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 研究科長特別補佐
- 2) ヘルスイノベーション研究科 運営委員会 委員
- 3) ヘルスイノベーション研究科 企画担当
- 4) 地域貢献研究センター地域貢献部門 委員
- 5) イノベーション政策研究センター プロジェクト担当

8 社会貢献

- 1) 未病産業研究会主催「超入門・公衆衛生学講座」講師
- 2) 神奈川県主催(イノベーション政策研究センター受託事業)「健康づくりのためのデータ活用研修 2019」講師
- 3) 神奈川県政策局ヘルスケアニューフロンティア推進本部室 アドバイザー

9 講演, 放送

- 1) Watanabe, R. (April, 2019). Graduate School of Health Innovation: Kanagawa University of Human Services. Fudan University School of Public Health; Shanghai.
- 2) 渡邊亮. (2019年11月)「情報を批判的に吟味する～「真実」を科学的に見極めるために～」『高3理系現代文』玉川学園高等部; 東京.
- 3) 渡邊亮. (2019年10月)「ME-BYO サミット神奈川 2019 分科会: 未病の指標化」パネリスト. 『ME-BYO サミット神奈川 2019』箱根.

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 「医薬品・医療機器の費用対効果評価における NDB の活用可能性の検証」日本学術振興会: 基盤研究(C). 研究期間: 2017年4月-2020年3月. 代表者: 渡邊亮.
- 2) 「医療機関における経営企画機能のあり方に関する調査研究」日本学術振興会: 基盤研究(C). 研究期間: 2017年4月-2021年3月. 代表者: 阪口博政.

14 その他

- 1) イノベーション政策研究センター受託事業「未病指標の社会システム化に向けた研究会」プロジェクト担当.

Thomas Svensson

2 Published Academic Articles

- 1) Hidaka A, Sawada N, **Svensson T**, Goto A, Yamaji T, Shimazu T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S. Family history of cancer and subsequent risk of cancer: A large-scale population-based prospective study in Japan. *Int J Cancer*. 2019.
- 2) **Svensson T**, Chung U-i, Tokuno S, Nakamura M, Svensson AK. A validation study of a consumer wearable sleep tracker compared to a portable EEG system in naturalistic conditions. *J Psychosom Res*. 2019;126:109822.
- 3) Tellhed U, Daukantaite D, Maddux R, **Svensson T**, Melander O. Yogic Breathing and Mindfulness as Stress Coping Mediate Positive Health Outcomes of Yoga. *Mindfulness*. 2019;10(12):2703-15.

4 The activities at the academic conferences

- 1) ○**Svensson T**, Nakamura M, Tei Y, Svensson AK. Sleep – a lifestyle factor for healthy ageing. World Health Organization Clinical Consortium on Health Ageing. Geneva, Switzerland. 22 November 2019. Oral presentation.
- 2) ○**Svensson T**, Nakamura M, Tei Y, ○Svensson AK. Monitoring of physical and mental health: Towards the new era of preventive medicine. Great Italy VIII International Meeting. Cilento, Italy. 3 October 2019. Oral presentation.
- 3) ○**Svensson T**, Nakamura M, Tei Y, Svensson AK. Prevention of cardiometabolic diseases at a nationwide level: the Japanese experience. Ettore Majorana Foundation and Centre for Scientific Culture, International School of Pharmacology "Giampaolo Velo", Erice, Italy. 9 September 2019. Oral presentation.
- 4) ○**Svensson T**, Nakamura M, Tei Y, Svensson AK. Can we target precision health using a digital approach? MIRAI Workshop on Ageing, Tokyo, Japan. 3 June 2019. Oral presentation.

5 The members of academic conferences, academies, and public institutions

- 1) Project researcher at the University of Tokyo
- 2) Visiting researcher at the National Cancer Center, Japan
- 3) Researcher at Lund University, Sweden

6 The educational activities at KUHS

- 1) Course director for Introduction to Epidemiology course
- 2) Course director for Oral Presentation course
- 3) Course director for Global Health Policy course
- 4) Supervisor of three master students
- 5) Assistant Supervisor of one master student

7 Various committees' activities at KUHS

- 1) Steering committee
- 2) Entrance Examination Committee
- 3) International Committee

9 Lectures and Broadcastings

- 1) Presentation of sleep research result at Fitbit Wellness Day 2019, Tokyo

10 Scientific research funds and other grants for contracted research activities

- 1) Grant-in-aid for early-career scientist, Japan Society for the Promotion of Science (JSPS)

14 Others

- 1) Ongoing international collaboration with Lund University in Sweden
- 2) Principal investigator for a validation study of a wearable sleep tracker (the University of Tokyo)